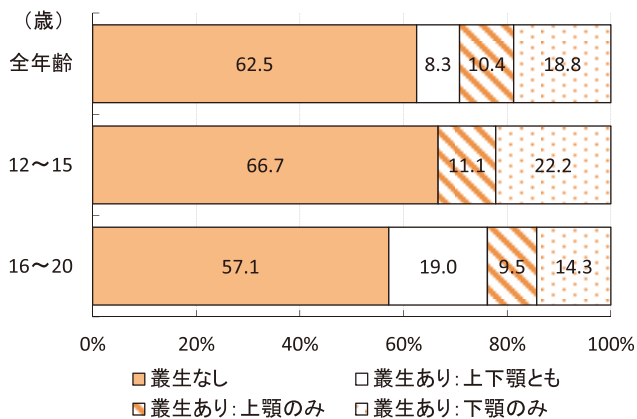


(3) 歯列・咬合の状況

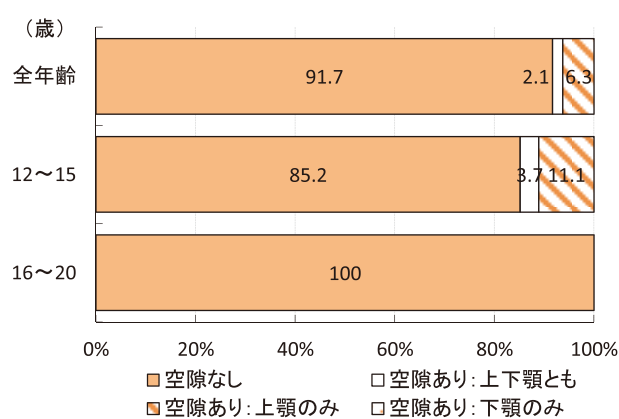
◆ 歯並びの状況

叢生がある者の割合は37.5%で、下顎のみが多かった。
 空隙がある者の割合は8.3%で、上顎のみが多かった。
 オーバージェットは、0.5mm以上4mm未満が全体の約半数を占め、6mm以上は12.5%であった。
 オーバーバイトは、0.5mm以上4mm未満が37.5%と最も多く、6mm以上は6.3%であった。

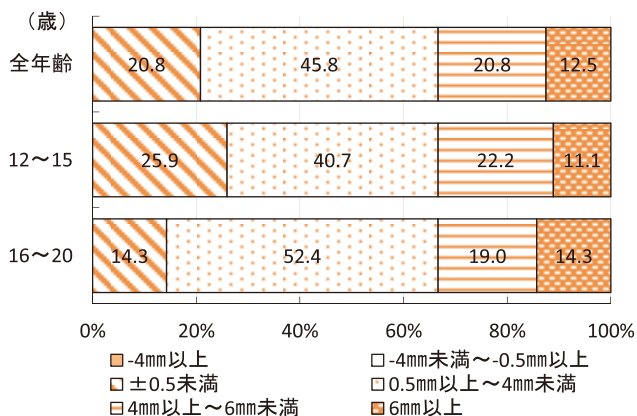
【図82】 叢生の状況(12~20歳)



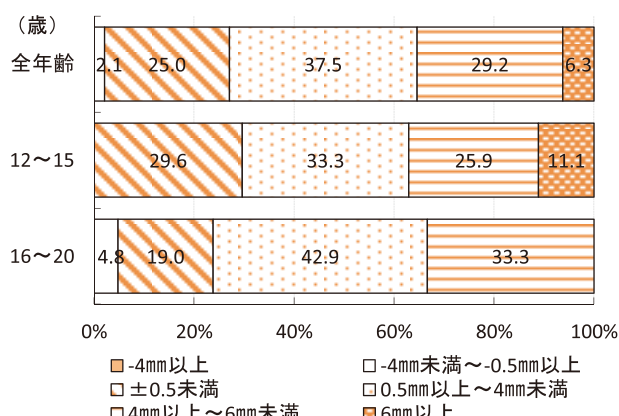
【図83】 空隙の状況(12~20歳)



【図84】 オーバージェットの状況(12~20歳)



【図85】 オーバーバイトの状況(12~20歳)



そうせい
【叢生】
 歯が重なり合っている状態の歯並びのこと。

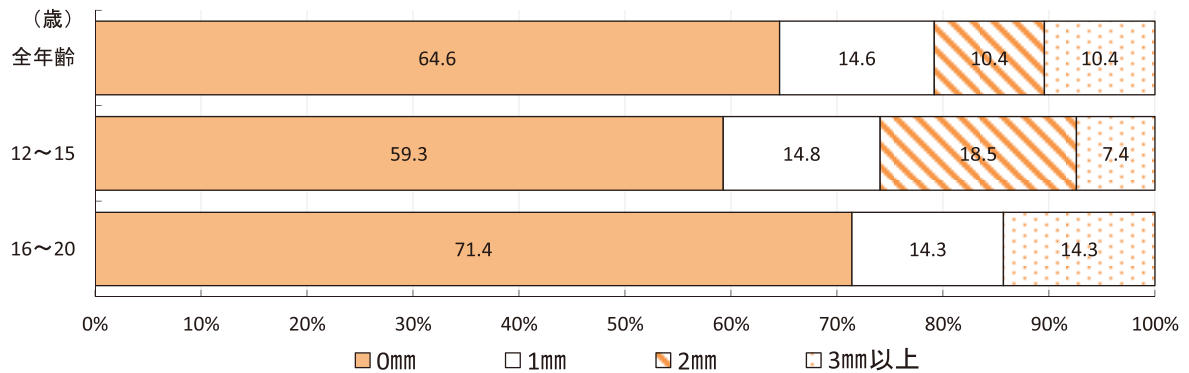
くうげき
【空隙】
 歯と歯の間に隙間がある歯並びのことで、すきっ歯とも呼ばれている。

【オーバージェット】
 横から見たときの前歯切縁の水平的距離。

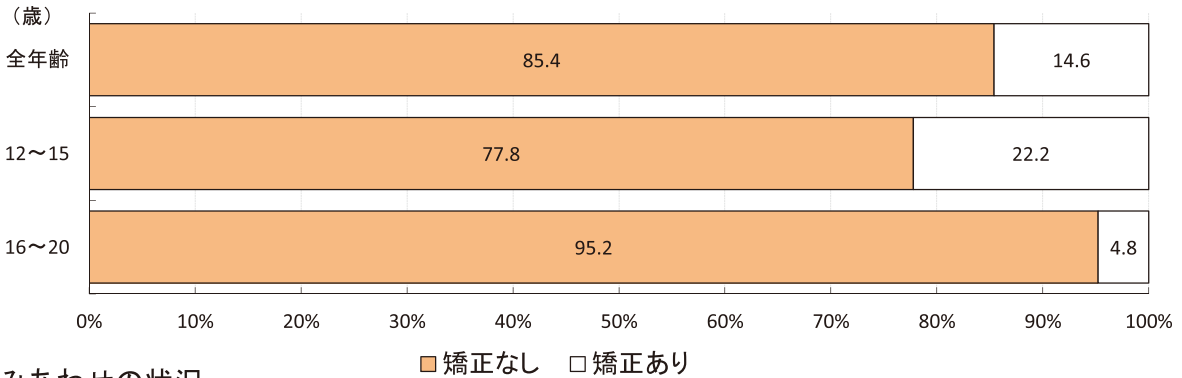
【オーバーバイト】
 上の前歯が下の前歯にどれだけかぶさっているかという垂直的距離を示すもの。

正中のずれは0mmが6割以上と最も多く、3mm以上は10.4%であった。
矯正をしている者の割合は14.6%、12～15歳では22.2%であった。

【図86】 正中のずれの状況(12～20歳)



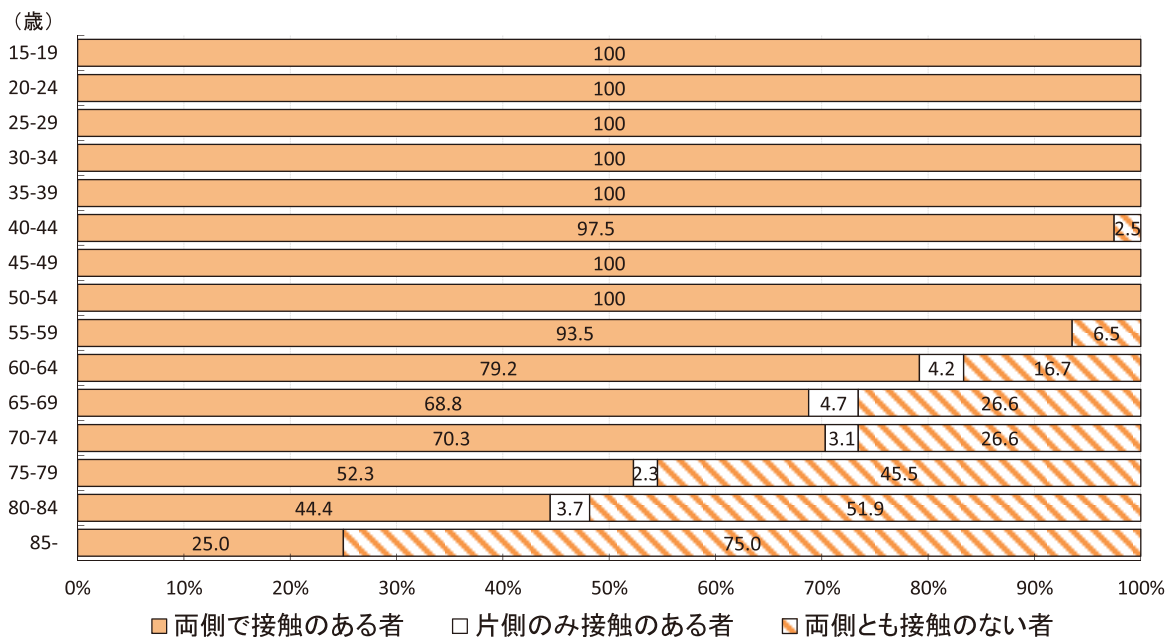
【図87】 矯正の状況(12～20歳)



◆かみあわせの状況

かみあわせの状況は、両側で接触のある者の割合は54歳まではほぼ100%、75～79歳では約半数に減少し、85歳を超えると25.0%であった。

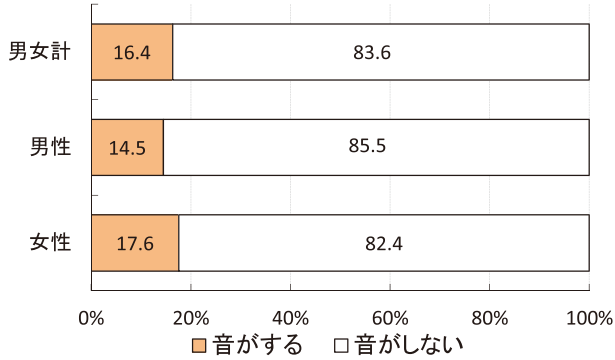
【図88】 かみあわせの状況(15歳以上)



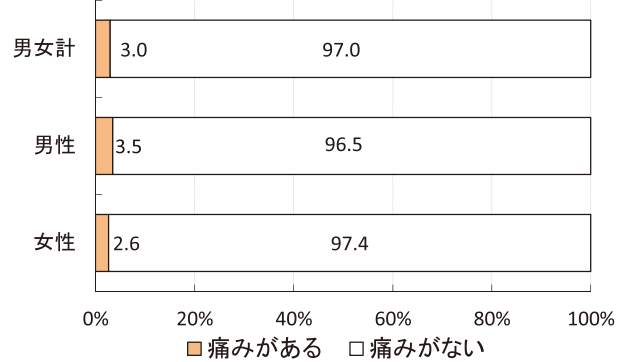
◆顎関節の状況

顎関節の雑音を自覚する者の割合は男性14.5%、女性17.6%であった。
顎関節に痛みを自覚する者の割合は男性3.5%、女性2.6%であった。

【図89】 顎関節の雑音を自覚する者(15歳以上)



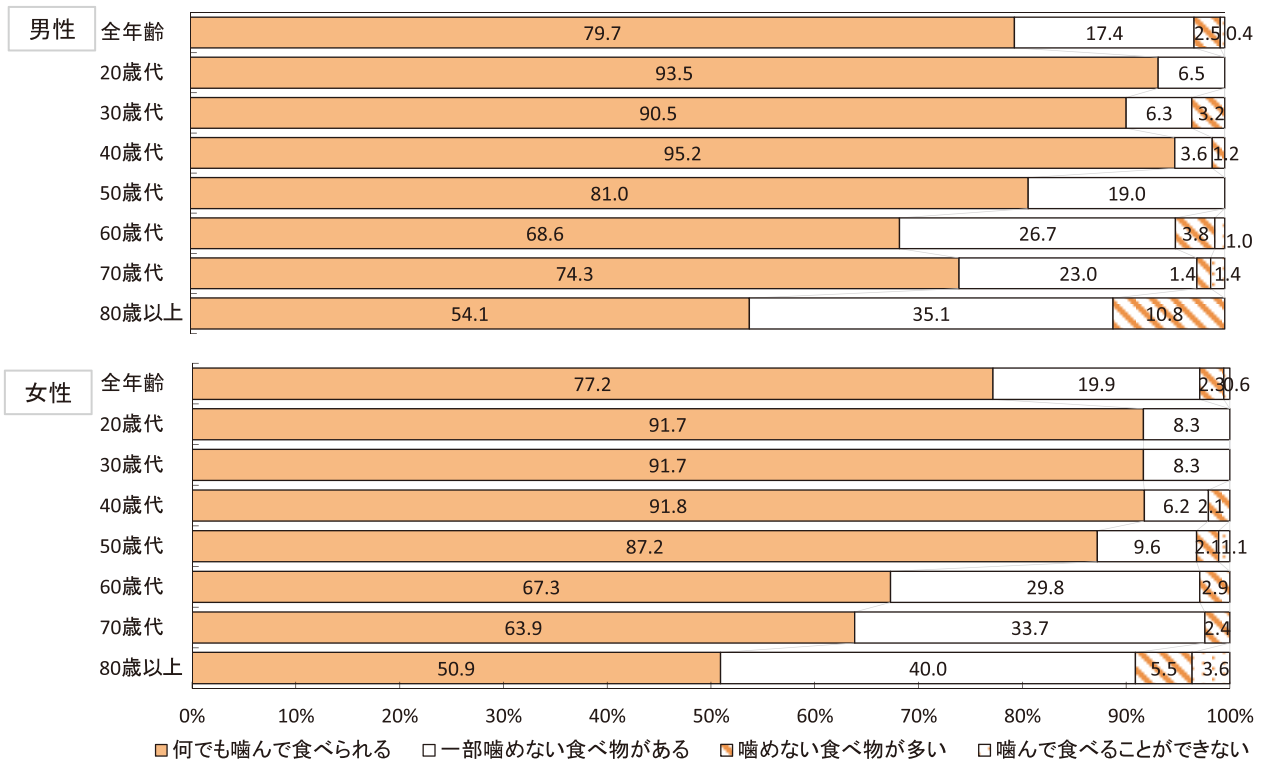
【図90】 顎関節に痛みを自覚する者(15歳以上)



◆咀嚼の状況

何でも噛んで食べることができると回答した者の割合は、男性79.7%、女性77.2%であった。

【図91】 噛んで食べる時の状態(性・年齢階級別)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
60歳代における咀嚼機能良好者の割合
目標値(平成35年度) : 80%